

広葉樹樹幹流の酸性度

—森は酸性雨を変えるか?—

1 研究のねらい

近年、各地で酸性雨が観測されているが、森林に対する影響の中で最も危険で深刻なのが土壌の酸性化である。しかし、ごく最近になって、幹を伝って流れる雨（樹幹流）の作用によりこれを抑制する樹種の存在が明らかになったことから、このような機能を持つ樹種の検索を行う。

2 研究方法と結果

- (1) 対象樹種：盛岡市周辺に自生あるいは植栽されている落葉広葉樹 30 種。
- (2) 試験方法：幹にガーゼを巻き付ける方法（森林総合研究所東北支所方式）で樹幹を流下する雨水を採取し、酸性度（pH）を測定した。

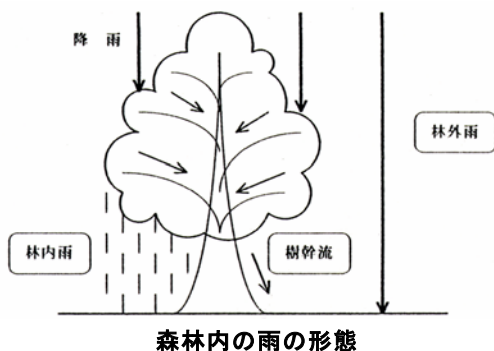
- (3) 結果：広葉樹の樹幹流は、雨の酸性度とは関係なく樹種毎に特有の値を持っていた。

オオヤマザクラやコバノヤマハンノキは、スギやカラマツといった針葉樹と同様に樹幹流の酸性度が強くなる傾向がみられた。

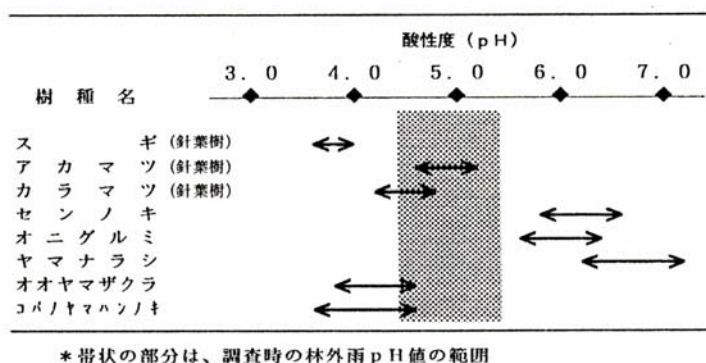
一方、センノキ、オニグルミ、ヤマナラシといった樹種では、酸性度が弱まる傾向がみられ、特にヤマナラシで顕著であった。

3 成果と今後の進め方

以上の結果、雨の酸性度を緩和する樹種の存在が明らかとなった。今後は、このような樹種が土壌の酸性化を抑制する機能があるかを検討する。



樹幹流の採取方法



主な樹種の樹幹流の酸性度 (pH)

(担当 森林資源部 専門研究員 高橋 忠幸)

連絡先

028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第三地割字清水 560-11
 岩手県林業技術センター
 ホームページアドレス

TEL 019-697-1536
 FAX 019-697-1410
<http://www.pref.iwate.jp/~hp1017/>